

帰れる夏があれば

仲山 清 歌詞集



雨

雨はどこを降る
ひだりの耳のひろがりを
ついに鳴らぬ鍵穴を
闇のなかでの挨拶を降る

雨はなぜたたく
ひふの記憶を
めくれあがる高さを
うしろ手の火を
なぜまたたたく

雨はいつぬらす
立ち去るばかりの宣告を
儀礼と棒のあわいを
いまつかみあう
自由をぬらす

●スライドつき演奏・うたは[こちら](#)

◆作曲・編曲：辛 鐘生

◆うた：辛 鐘生

◆CD：辛鐘生『悪い夢』（全8曲／KON企画 2001年）所収



帰れる夏があれば

帰れる夏など
あるはずがない
あるはずがない夏へ
だから帰る
われた背なかをのぞいてみるかい
のぞいた顔をうつすだけだよ
むかしむかしの時代の水が
いまなお さざめく
われていなかったころの
背なかをだれかにやさしく
たたかれるみたいに
だからいたたまれず
いつでも帰る
われた背なかを固くとして
あるはずのない夏へ

◆作曲・編曲：としたん ◆うた：三輪みどり

*この作品は、現代詩に曲をつけたものです。



兇状持ちの唄

あたまを撃つよな ^{いかずち}雷 きいて
兇状持ちがすくむ

はたごの二階でひる酒あおる
関所破りのたびの果て
ああ まるで八方ふさがりの
闇から逃れられたら
雨が降り出すまえに

雨雲あつめてうず巻く風に
鳥が飛びたつ よろめいて飛ぶ
ああ 情けなや わが身みる思い
いそぎもどれ 森へ
雨が降り出すまえに

ああ あんどんに キセル雁首
くぐらせて 火をつけ のろい酒
……きょうも

◆作曲：soulbox

◆うた：辛鐘生・将太



暗闇半兵衛

よしずを透かしてうかがえば
通りをひよっこ引かれ者
馬上 後ろ手 緊縛の
からだをぐいと立て直す
どんな沙汰やら ぶざまをさらし
わが身に覚えの半兵衛も
怖気づくわな 鈴が森

十手(じって)で背を搔く不細工が
そのうえあくびの岡っ引き
境の橋行く商人(あきんど)を
呼びとめ えらそにさぐり顔
ふいと目が合い 小皿を鳴らし
するめをちぎった半兵衛の
にわか変化(へんげ)の草芝居

長居は無用 品川も
あしたは丸子か 御酢(おす)街道
今晚かぎりの世迷い言
聞いてりゃ女はもと賊徒(ぞくと)
二十日鼠と名乗って笑う
たたみ目むしりの差し向かい
月が邪魔するさされ酒

*御酢街道：中原街道の別称

◆作曲・編曲：SOULBOX



素浪人残夢抄

男のせなかをやさしくはたく
女の手なら小雨なら
ふらりと町屋へ参ろうものを
空見りゃ黒雲 重たくたれて
銭なし やむなし ごろ寝の
草双紙 草双紙

目ざめりゃいずこへ枕は飛んで
はだけた胸に鳥の羽
だれぞに追われる夢さえのこる
手すきの身なれど喰わねばならぬ
刀をたずさえ めし屋へ
傘もなし 傘もなし

掛売無用の木札をにらみ
ビタ銭拝む素浪人
ひや酒ひとつもふところ勘定
ひさしをポツポツ雨打ちはじめ
めし屋を出るなり 小癪な
犬が吠え 犬が吠え

◆作曲・編曲：SOULBOX

◆うた：Secret M



おわり岬

無意味なことを 意味あるふりで
生きてたぼくでも きみへの思い
つたないけれど うそではなかったよ
ああ 風の右手 クルクルまわし
雲に告げた 「さようなら」は
あわい夢の おわり岬

はやりの歌をデュットしたり
たのしく過ごした わずかな日々が
ぼくにはきっと 励みになるだろう
ああ 青い海を ただようさまに
白い雲の にじむままに
ゆれてむせぶ おわり岬

軽くはないが 重たくもなく
心にしまった おもいで小函
きみにもいつか 宝になればいい
ああ 船の影が 陽射しに溶けて
ひとりめぐる おわり岬
あるきだせば はじめ岬

ああ 船の影が 陽射しに溶けて
ひとりめぐる おわり岬
あるきだせば はじめ岬



今夜のきみは悪女

恋はいつでも クルクル踊る
らせん階段 ガラスの手すり
めまいがうれしい 星になる
ひょっとして宇宙の塵かもね
いいさそれでも かわいいきみを
抱いて今夜も クルクルさ

過去のことなど どうでもいいが
夕べの電話はあやしげだった
いつもとちがった かすれ声
ちょっぴりね 悪女か、魔女かもね
妬けたぶんだけ 倍にして
甘いささやき 欲しいのさ

夜の都会を飛んでるような
らせん階段 からだをあずけ
ふたりでひとつの星座だよ
だまされたみたいにキラキラと
「かわいい女」が一生続きゃ
怖いけれども 天使だね

◆作曲・編曲：SOULBOX

◆うた：Secret M



寒の川

あなたに見送られ
わたしは雨になる
見送るひとの 涙の雨になる
憎んでも 愛しても
ここで想いはいきどまり
岸も見えない 寒の川

あなたに背を向けて
わたしはみぞれ橋
さむざむ渡る 思い出つれていく
うしろ髪 ひかれては
雪をいただく 枯れ葦に
舟をさがして またまよう

墨絵の雪景色
切り裂く舳先には
琥珀のいろに 鳥さえ凍えてる
知りそめた日に帰る
羽があるなら 寒空を
夢のあなたへ 飛んでいく

◆作曲・編曲：としたん



ゆうやけ、いっぽ

ひぐれ ひぐらし さざめく森の
とんがりこずえに あかあかと
ゆうやけ一歩 身をのりだした
ああ あの子は かたぐるま
かたぐるま

もえる花いろ いつもの道を
帰れば かおりの 落としもの
ゆうやけゆらす 声たからかに
ああ だれかが うたってる
うたってる

きらり川面に うつしてならぶ
爪立ち背のびの かげいくつ
ゆうやけぐるみ きれいなままで
ああ この日に 立ちどまれ
立ちどまれ

指をかざせば いちごのにおい
あしたへ紅ひく 雲はるか
ゆうやけまみれ はだかの天使
ああ この子は ゆめシャワー
ゆめシャワー



みれん屋

こんな暮らしも わるくないわと
しあわせな日々を 遠慮がちにしたため
話したいことあるのと 書き添えたきみ
あれからもう 会わずに月日がたった
あきらめが肝心 ぼくは自分に言い聞かせ
ひとには未練たらたらと嘆かれながら
きみからの手紙 大事にしてるんだ
妻や娘には秘密だけれどね

家族はすばらしい
だけどいまも
花でなく蝶でなく きみに恋してる

写真ぎらいの ぼくはますます
自分の顔を 見るのがいやになったが
出かけるときはいちおう 鏡を覗く
年よりも若いと いわれているけど 心して
床屋へは月一度 爪はいつでも短めに
おしゃれじゃないが 挫折も美味と
決めこんで 夢を追ってもいるんだよ
妻や娘には笑われながらね

家族はすばらしい
だけどいまも
山でなく海でなく きみに恋してる

ひとにはばかな『みれん屋』とけなされながら
あれからのきみの 人生についても
ぼくはたいして知らないくせにね

長生きしてくれよ

ぼくはいまも

星でなく月でなく きみに恋してる

◆作曲・編曲：わぎゅう

◆うた：わぎゅう



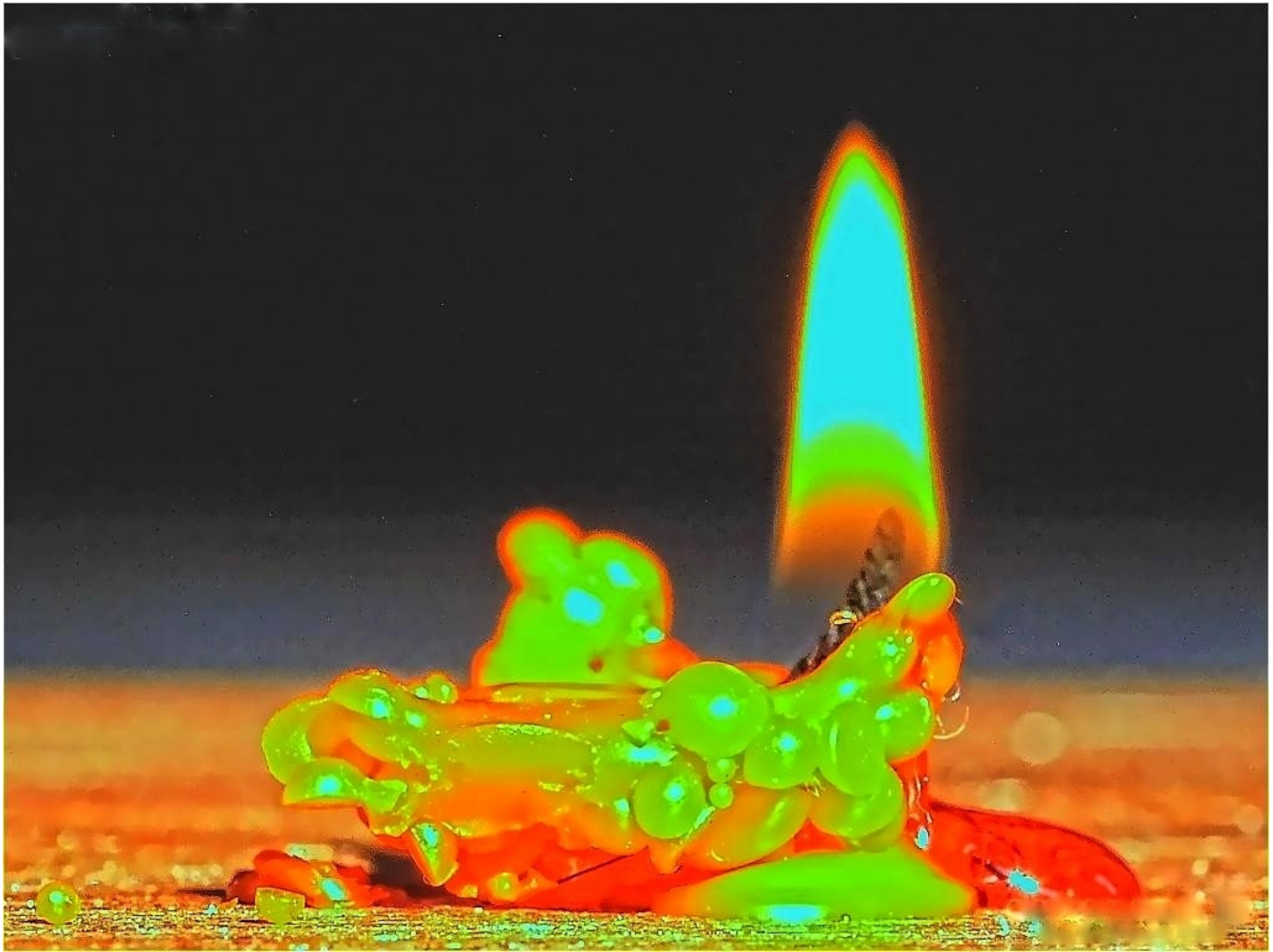
まぼろしの花ならば

ことばかず少な
むかしの恋ひとつ
ほほえみを絶やさず
あなたは話した
グラス持つ手細く
お酒は強くなさそう
まぼろしの花束を
抱いていたいね

リクエストしたのはどなたか
ジャズも好き
くせのある酒場の
ほどよいざわめき
あなたには野に咲く
小さな花が似合いそう
まぼろしのひと茎を
手にしてごらんよ

なじみ客 出入りに
ドアから見える街
雨上がり 路面に
ネオンがまたたく
行きずりのぼくらに
別れのときがきたらしい
まぼろしの花ならば
散らずに咲いてよ

◆作曲・編曲：かざき昭三



あとがき

作詞：仲山清

作曲・編曲：辛鐘生／としたん／SOULBOX／かざき昭三／わぎゅう

うた：辛鐘生／翔太／三輪みどり／Secret M　ほか

●歌詞は今後、変更する場合があります。歌の再吹込みがあった場合も本書を通じてお知らせします。

●収録されている曲を歌ってネットにUPしたいという方がおられましたらご一報ください。カラオケ等の提供を考慮させていただきます。

●[HP鰐組](#)では常時、歌詞をアップし、作曲を募集しています。またボーカルを担当してくださる方を求めています。

帰れる夏があれば

<http://p.booklog.jp/book/35935>

著者：仲山 清

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/wanip/profile>

写真：七里

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35935>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/35935>

発行：ワニ・プロダクション